

事業の背景・目的

ラムサール登録湿地「三方五湖」は古くから地域の人々に食料や農漁業、文化等を通じて豊かな生態系サービスをもたらしてきた。しかし、近年はコンクリート護岸整備や湖と川の水のつながりの分断、肥料や農薬等の濁水の流入、外来種の侵入等により生物多様性の危機に直面している。こういった課題を1つ1つ解決するため、自然再生協議会を平成23年5月に設立し、地域住民、農漁業者、行政、専門家等が協力して生態系サービスの持続可能な享受と自然と人のつながりや人と人とのつながりの再生を通じた「元気な地域づくり」が重要である。

事業の内容

事業① 自然護岸再生事業

- ・自然護岸再生の手引書に基づき護岸整備
- ・久々子湖・水月湖にて浅場を設置
- 【R2～R3】 20,00m³ 以上（搬入土砂量）
- ・石倉魚礁23基設置
- ・久々子湖でヨシ植栽による再生



浅場造成（久々子湖）

事業② 湖と水田とのつながり再生事業

- ・養魚水田(35か所)
- 【R元～R3】
地元産フナ・コイ
547,000匹の稚魚を
水田で育成、放流
- ・地元産フナ缶詰の
商品開発



フナ缶詰商品開発

事業③ 環境に優しい農法推進事業

- ・「環境に優しい農法」認証制度米のPR
- ・水田からの濁水
流出防止活動
11集落で実施
- ・濁水防止効果
測定
(5河川8か所)



得られた成果

- ・自然護岸再生の手引書に基づきシジミ等が生息できる浅場造成や多様な生物の生息場所となる石倉魚礁を設置することで、コンクリート護岸と自然護岸とのハイブリッドにより、野生生物の生息場所や自然のもつ多様な機能を活かしつつ、災害への防御機能を向上させるEco-DRRの考えに基づく護岸整備を推進した。
- ・湖や川から水田へ遡上し産卵できる環境消失に代わり、湖や川で採卵し水槽でふ化させた在来淡水魚（フナ・コイ）の仔魚を35か所の水田で育て放流し地元産淡水魚の保全を促進。地元産フナを使った缶詰の商品開発を進めた。（次年度以降に販売を計画中）
- ・農薬を減らす等生き物の生息に配慮した農法や、湖の水質に配慮して濁水を流さない農法に取り組む団体増やすため、「環境に優しい農法」認証制度を設け、7団体を認証。地元イベント等で周知、販売促進を図った。